

氏名	岡崎 勇樹
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6136 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Steep posterior slope and shallow concave shape of the medial tibial plateau are risk factors for medial meniscus posterior root tears (内側半月板後根断裂のリスクとなる脛骨近位部骨形態の検討)
論文審査委員	教授 木股敬裕 教授 中尾篤典 教授 郷原英夫

学位論文内容の要旨

【目的】内側半月板後根断裂 (MMPRT) の危険因子として、脛骨近位部の特徴的な骨形態が存在するものと推察される。本研究では、MMPRT 受傷膝と非受傷膝における内側脛骨プラトー (MTP) の後傾 (MTS) ・陥凹 (MTPD) を比較検討した。

【方法】健常ボランティア女性9膝 (平均38歳, V群)、前十字靭帯損傷に対して再建術を施行した女性24膝 (平均28歳, A群)、MMPRTに対してpullout修復術を施行した女性36膝 (平均61歳, M群) を対象とした。

【結果】V・A・M群における MTS は、それぞれ $3.5^{\circ} \pm 1.4^{\circ}$ ・ $4.0^{\circ} \pm 1.9^{\circ}$ ・ $7.2^{\circ} \pm 1.9^{\circ}$ であった。MTPD はそれぞれ 2.1 ± 0.7 mm, 2.2 ± 0.6 mm, 1.2 ± 0.5 mm であった。V群・A群と比較しM群における MTS は有意に大きく、MTPD は有意に小さかった ($P < 0.01$)。

【考察】内側脛骨プラトーの後傾が強いと MM 後方にかかるストレスが上昇することが報告されている。また、内側脛骨プラトーの陥凹が浅いと大腿骨が後方に転位しやすいため、MMPRT のリスクが増加するものと考えられる。

【結論】後傾が強く陥凹が浅い内側脛骨プラトーはMMPRTの危険因子である。

論文審査結果の要旨

内側半月版後根断裂(MMPRT)に関する研究は極めて少なく、またその危険因子も良く分かっていない。本研究では、MMPRT の危険因子が脛骨近位部の特異的な骨形態が原因であると仮定し、MMPRT 受傷膝 36 例と非受傷膝 33 例で、健常における内側脛骨プラトーの後傾(MTS)、陥凹(MTPD)を比較検討した。

その結果、MMPRT 受傷膝の方が、明らかに MTS が大きく、また MTPD は有意に小さかった。また体重が大きく影響していることも判明した。

本結果は、MMPRT の危険因子を始めて明らかにしたものであり、後天性の変化、体重による変化などの更なる研究、また MMPRT の予防ための研究に発展する可能性を秘めた成果である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。